

## 「 鬼 越 古 道 」

### 第 I 部 有志による鬼越古道&戸神山一周の探査報告

第一章 2014（平成26）年4月16日（水）AM、石行寺佐藤亮照住職を案内

第二章 2021（令和3）年4月4日（日）AM、5名同行

<参加者>

小立 阿部慎悦さん

〃 斎藤悟さん

岩波 伊藤利博さん

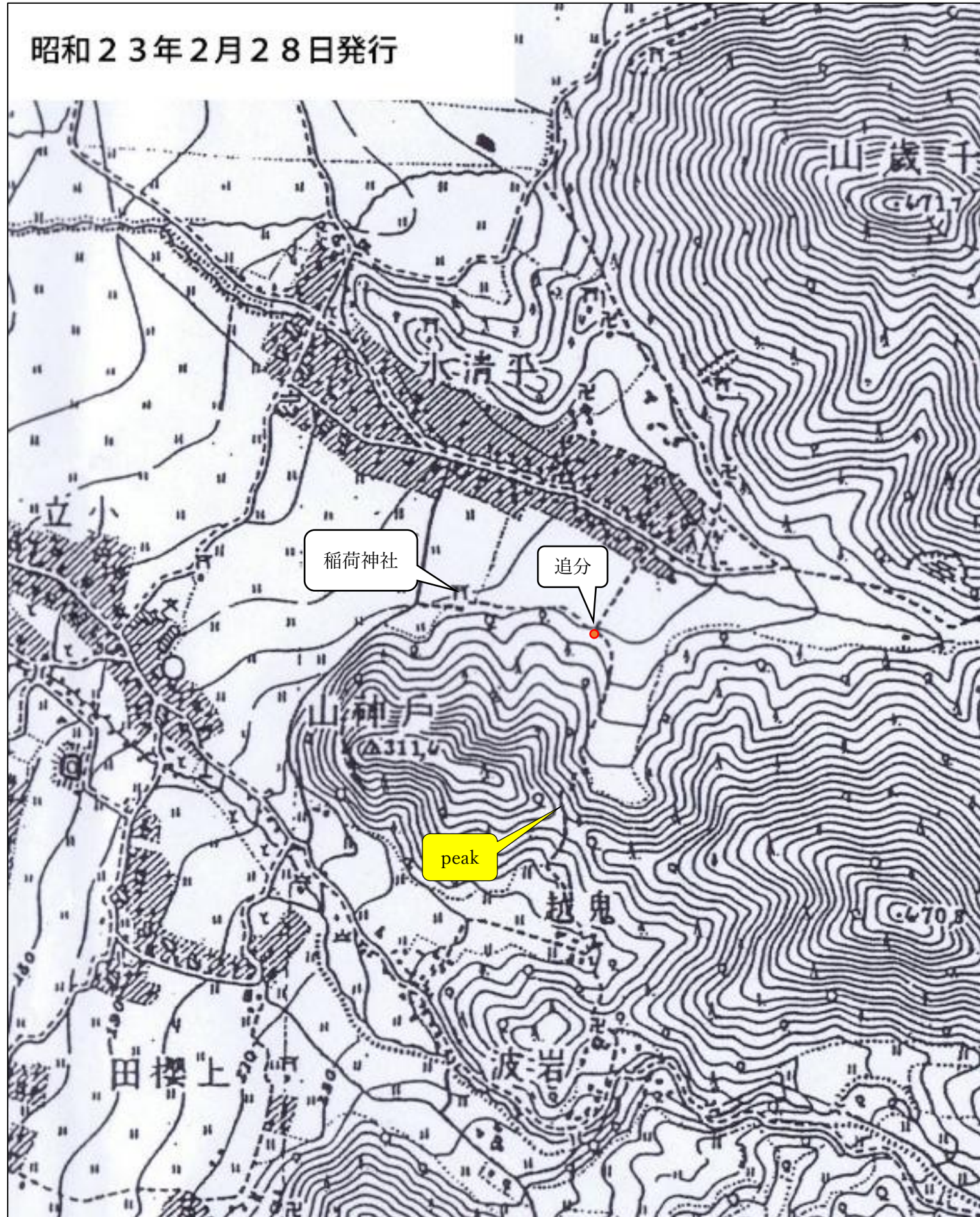
〃 神谷正志さん

上桜田 大沼香（文責）

### 第 II 部 「鬼越の森再生プロジェクト」活動の成果

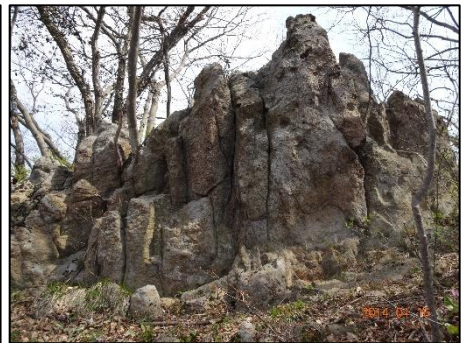
（松本剛さんの活動紹介）

（上桜田の大 沼 <sup>かおる</sup>香）



左図は国土地理院の地形図、右図は私が携行したGPS機の実査軌跡、縮尺は異なるが、鬼越古道ルートはほぼ一致する。





これらの写真は、鬼越の峠から戸神山頂までの尾根筋のカタクリの花と岩稜



戸神山山頂からの山形市街地  
(西方面)





左  
 いわなみ  
 道  
 観世音



追分  
 (道しるべ)



平清水家の戸神山稲荷大明神

平清水家の戸神山稲荷大明神は、1年前の2013(H25)年3月28日(木)時点では、鳥居前の杉の大木は伐採されていませんでしたが、その状況が右写真です。





戸神山西麓の毘沙門堂と三十三観音石仏



岩波大橋の石碑群

「三社託宣碑」(写真中央)の裏側には「金毘羅」(金毘羅権現)が刻字されている。

## 【 感 想 】

石行寺佐藤亮照住職と同行し、最上三十三番観音霊場7番札所岩波観音堂をスタートし、鬼越峠の古道を歩き、戸神山を一周して石行寺に到着しました。

主要な基点として、鬼越峠、戸神山頂往復、平清水に下って追分碑、平清水家稲荷神社、戸神山西麓三十三観音石仏、岩波大橋の石碑群を辿りました。

鬼越峠から戸神山までの尾根筋に掛けては、カタクリ花の群生地が散在し満開でありました。

鬼越峠から戸神山までの尾根筋に岩稜部が2箇所あり、「一刀礼拝」により磨崖仏を彫刻したくなる雰囲気がありました。

さて、当日、前記、平清水家稲荷神社の所に通り掛かった時、境内の杉の木を伐採した直後で家人が後片付けをしていました。快く同社の内部の拝観（**次頁写真**）をさせていただきました。神社の建物の内部に家屋型の厨子があり、祭壇となっていました。その厨子は煤けて黒光りしていましたが、神仏習合時代の護摩炊き・護摩修法による影響ではないかと思いました。

もう一つ、前記、戸上山西側直下麓の三十三観音石仏はどこか正霊場の写しなのか、最上三十三観音霊場だという人と、いや山形三十三観音霊場だという人がいる。さて、真偽のほどは？ 管理人・持ち主は判明しており直接訊ねたが、“分らない”とのこと。私の調査ではどちらでもない！

さらにもう一つ、前記、岩波大橋の石碑群の中に「三社託宣碑」があり、その裏側には「金毘羅」（金毘羅権現）が刻字されている。二つの顔を持っているが、何か云われはあるのか？

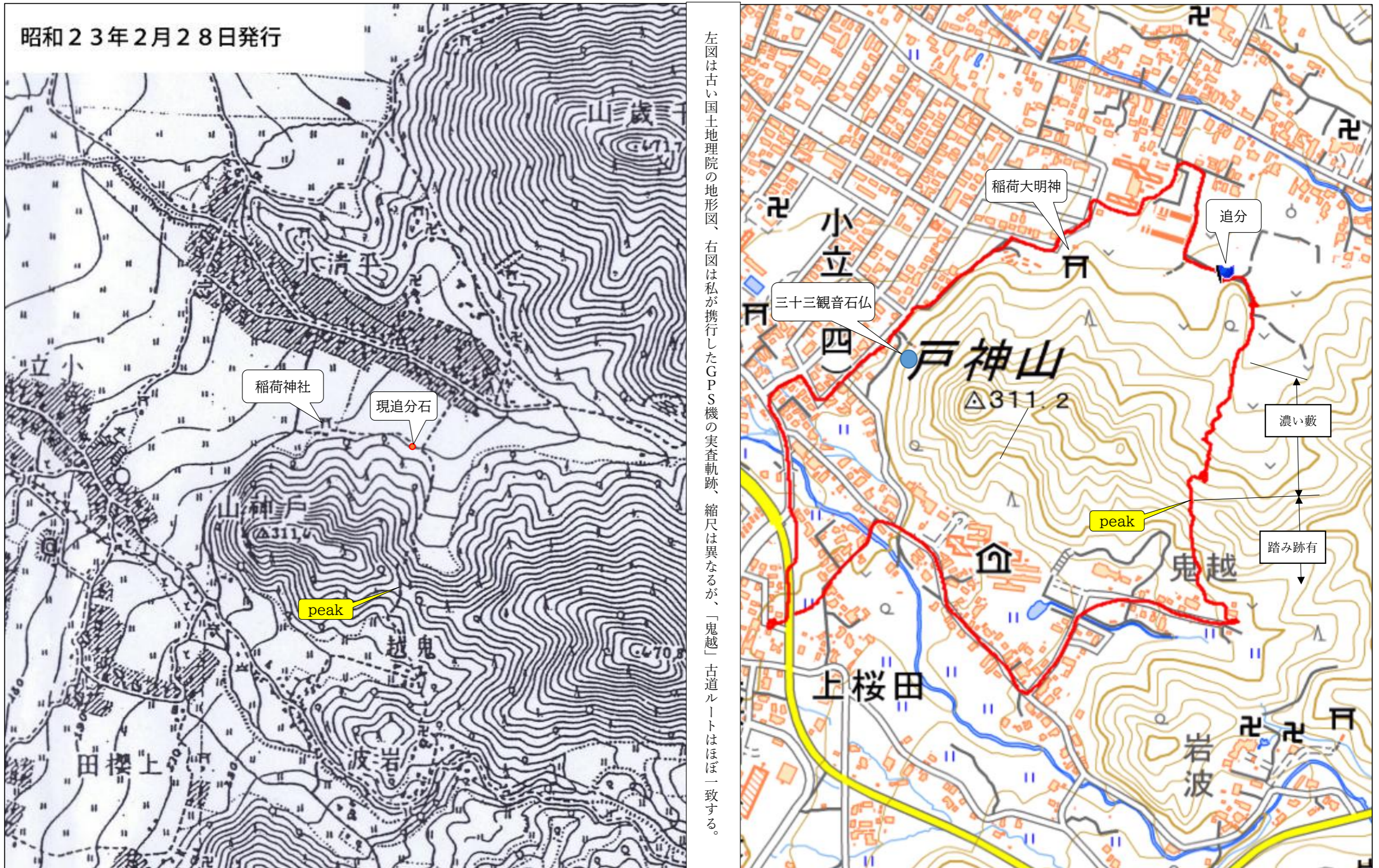
G P S 機器を携帯し歩いたが、実査のルートは、昭和 23 年 2 月 28 日発行の国土地理院地形図に記載されている鬼越古道ルートとほぼ一致している事を確認しました。G P S 機、地形図にはそれぞれの誤差はあるが、限りなく一致していると判断して良いと思います。

戸神山を中心に徒歩一周であったが、改めてこの界隈の自然の良さ、歴史的な味わいを堪能する事が出来ました。

ありがとうございました。



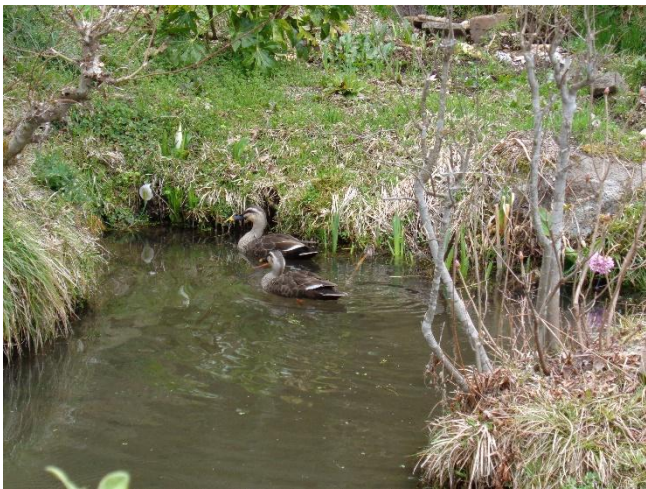
今回の実査においては、下図の左右を比較すると、古い地形図上のルートにほぼ近いコースを取れたものと思っ良いのではないのでしょうか。







(伊藤さん宅の所に集合)



(伊藤さん宅内御池に住む鴨のつがい)

(次頁の追分石から望む平清水)



左  
観世音  
道

いわなみ

追分石 (左写真) の刻字



南方から見た「鬼越」———2021(R3)/04/05(月)撮影



左は小桜橋の桜、右は鬼越のカタクリ———2021(R3)/04/05(月)撮影  
この時期にしてこの状況です、地球温暖化・異常気象の現れ?!



【参考】平清水家の戸神山「稲荷大明神」  
左は 2013(H25)/3/28(木)、右は 2014(平成 26)/4/16(水)撮影  
内部は最後の 8 ページに記載

## 今回携行したGPSの記録——軌跡（トラックログ）について

この度は、三つの機器を携帯して記録したので比較してみます。

下図対応	機器	アプリ	パソコン処理ソフト	備考
①	Apple Watch	Workouts+（有料）	カシミール3D	アプリは軌跡を記録するのみ、地図はiPhone（又はiPad）内のもの
②	Apple iPhoneSE	スーパー地形（有料）	〃	国土地理院地形図とリンク
③	Garmin OREGON650t	本体内蔵	〃	本体に国土地理院地形図と記録機能を内蔵した専用機

同じ地点（場所）においても、微妙に違う（ズレル）ところがあります、ただし1m以内か？ 自動運転に利用する精度を要求するものでないことから歩くために利用する分においては十分な精度であることが分かります。

スマートフォンのGPS機能に係り、Apple製品でも、Android製品でも機器本体はGPS機能を保有しているが、問題は記録する機能の有無です。記録動作はそのためのアプリケーションをインストールする必要があります。殆どは1千円以内の有料です。

なお、前記2ページ右側図は下図①と同じものです。また、②を記録したiPhoneSEはザックのポケットに入れてチャックを閉めた状態で携行したものである中でこのとおりですから、「iPhoneSE&スーパー地形」の組合せがとても相性が良い——受信感度が良いスマホであると思っています。



## 第Ⅱ部 鬼越の森再生プロジェクトの活動成果 (松本剛さんの活動紹介)

山形大学教授の松本剛さんが「鬼越の森再生プロジェクト」を立ち上げ・主導した鬼越古道復活の成果を紹介する。

近年、この近くに居を構えた松本さんは、近辺の森の再生（針葉樹の杉が混在の山を広葉樹の山に再生したいということか）に関心を持つ中で、この鬼越古道の復活にも取り組んだ。松本さんの呼びかけに呼応し地元の有志ボランティアが集い、地権者調査、地権者への趣旨説明と応諾獲得、現地の刈払いと道普請に努め、最終盤には次頁以降の案内マップを作製し、みんなそれぞれの役割を發揮し、2023(令和5)年の1年足らずで仕上げたものである。

前記第Ⅰ部に記載したとおりに、地元においては以前から関心を持つ人がいたもののそこで止まっていた。

しかし、この度の松本さんの情熱とリーダーシップがあったからこそに一気に仕上がったものである。また、所要の経費を伴ったが、松本さんの知見と手続きを踏まえて獲得して頂いた。ここに感謝と敬意を表すものである。もう一人忘れてならないのが、黒沢峠を中核に越後米沢街道・十三峠の復活に注力した高橋さんである、松本さんと共に、その培ったノウハウをここにも如何なく投入して頂き立派な古道に仕上げて貰った。

この近辺には、神尾古道－東西（新旧）ルート－もあるが、歩くとなれば気軽な散歩という訳にはいかないだろうが、この鬼越古道は里と里を結ぶご覧のと通りの地理的好適地にあり、気軽に散歩出来るコースである。子供達や高齢者にも歩いて貰いたい山道である。一部の古道ハイクマニアには知れ渡りつつあるようだが、まだまだ認知度は低いのではないか。大いにPRに尽力したいものである。

(完)



**岩波焼**  
いわなみやき

岩波焼は、鬼越の有力者であった伊藤藤十郎が始めた窯業です。平清水では、既に陶器を焼く窯業が行われていましたが、藤十郎は商品価値の高い磁器を焼く窯業の確立を目指し、弘化元年(1844)、平清水の陶器窯を借りて磁器の試焼を行いました。しかし上手くいかず、会津、肥前、岡崎、宮城切込の陶工の協力を得て、弘化4年(1847)、鬼越に新たな窯を築き、磁器生産を成功させました。

近隣では、尾花沢の上の畑などで、すでに試験的に磁器を焼いた窯はありましたが、産業として成功した磁器窯は岩波焼が初めてで、文久3年(1863)には、販路を仙台まで広げ、多くの製品を移出しています。

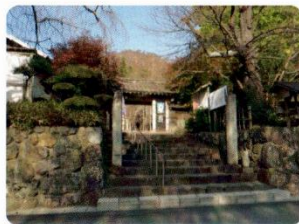
藤十郎は磁器の技術を平清水をはじめ、他の窯場にも伝えたといます。また磁器原料の石を砕く水車を竜山川に設置しており、鬼越古道を通り、磁器の原料や生産技術が岩波と平清水を行き来したと考えられます。それを証明するかのよう、鬼越古道からは生産途中の磁器製品が見つかっています。



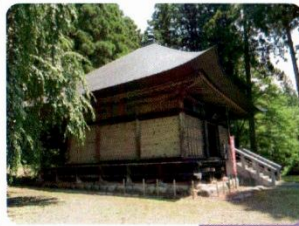
**平清水焼**  
ひらしみずやき

平清水焼は、文化年間(1804-1818)に当地を訪れた陶工、小野藤治平が開いた窯業です。開窯の資金を援助した平泉寺の東側に最初の窯が築かれ、おって複数の窯が平清水の各所に作られました。当初は主に日用使いの陶器を生産する窯業だったようですが、後に他領へ販売できる磁器製品も生産する窯場になっていきます。

嘉永2年(1849)、先に磁器生産に成功した岩波焼から技術を学び、平清水にも磁器を焼成できる窯が築かれます。岩波焼は大正3年(1914)に廃業しますが、平清水焼は明治・大正期に近代技術を導入して発展し、昭和15年頃に最盛期を迎えます。このような経緯から平清水焼は東北における有名な窯場の一つとなりました。



**平泉寺**  
へいせんじ



**岩波観音堂**  
いわなみかんのんどう

岩波観音堂は県の指定文化財で、最上三十三観音の7番札所にあたります。本尊は十一面観音です。岩波観音堂には天正8年(1580)の墨書が記されており、現在のお堂はこの時期に建てられ、その後改修しながら伝承されてきたものだと考えられています。最終的な改修は、昭和62年(1987)に全面的解体工事が行われています。

管理寺である石行寺は、和銅元年(708)の創建。開山は行基上人で、岩波観音堂の本尊も行基上人が造像したと伝わります。

鬼越古道の平清水側の入口付近には「左り岩なみ観世音道」と刻まれた追分石があり、最上三十三観音6番札所がある平清水から、7番札所である岩波観音を訪れるために、かつて鬼越古道が使われていたと考えられています。



**石行寺**  
しゃくぎょうじ



**平清水観音堂**  
ひらしみずかんのんどう

平清水観音は最上三十三観音の6番札所にあたります。本尊は十一面観音で、寺伝によれば、平安時代、源頼義が前九年の役において安倍貞任一族に勝利して凱旋する際、平清水に観音堂を建立し、春日仏師が造像した観音像を安置したのが始まりだと伝わります。

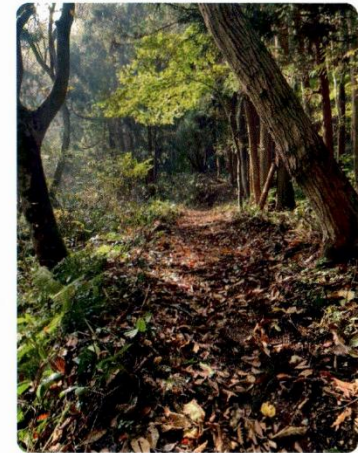
元禄11年(1698)、山中にあった平清水観音は耕龍寺に移され、以後耕龍寺の鎮守仏と定められました。現在の観音堂は、宝永8年(1711)に建立された建物だと考えられています。

観音堂の脇には、硯石や享保10年(1725)に建立された能化地藏菩薩をはじめとした石仏や石碑が祀られています。また耕龍寺には平清水焼の陶祖、小野藤治平の墓も所在しています。



**耕龍寺**  
こうりゅうじ

# 鬼越古道



鬼越古道は、平清水と岩波を結ぶ約800mの古道です。この古道の中間地点には、道の名前の由来となった鬼越という地名の集落があります。当地には鬼に関わる物語が伝わっていますが、同時に荷物を背負い、つまり「負荷(おうに)」してこの地を越したという意味で「おうにし」、「鬼越」と呼ばれるようになったともいわれています。

また、鬼越古道はかつての最上三十三観音の参詣道であったり、平清水と岩波で行われた窯業の技術や原料が行き来した道だったとも考えられています。

荷駄や背負子、参詣者が、様々な荷物を背負い、この道を通ったことが想像されます。

令和4年、鬼越の森再生プロジェクトが古道を復元した際、藪を切り払い、見えなくなっていた古い道筋を調査したところ、斜面を大きく左右に移動する九十九折の道が確認されました。九十九折の道は、真直ぐな道より歩く距離が長くなる反面、傾斜が緩やかになり、重い荷物などを背負って歩くことが楽になります。鬼越古道にはその名の通り、荷運びに適した道が敷かれていたことが分かったのです。

令和5年12月  
発行：鬼越の森再生プロジェクト  
制作：地域文化資源活用工房ロフト

※このリーフレットは一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団様の助成金で制作しました。

# 鬼越古道ルート案内図



①山形大学清明寮の横の土道を戸神山の方面へ向かいます。道沿いに進むと、岩波方面へ導く古い道分石、いわゆる道標があらわれます。



②古い道分石です。「左り 岩なみ 観世音道」と刻まれています。この道標に従い、左に進むと鬼越古道の平清水口に到着します。



③平清水口から細い古道を暫く進むと、この場所で平場が広がり、道幅が急に広がったように感じます。しかしこれは古道ではなさそうです。この平場の東端に細く盛り上がった場所があり、これが古道だったと考えられます。



④平清水口から岩波方面に向かうためには、急斜面を登ることになります。斜面を登る道はジグザグに曲がって進む九十九折の道です。道が破損していたため、そこを避けてショートカット道を設けた場所もあります。地図では、復元できなかった古道を点線で示しています。



⑤古道整備の際、平清水から登る九十九折の古道で見つかった磁器の角皿です。内面に「ふくら雀」の模様があります。素焼が完了し、これから染付と本焼を行うと完成する未完成品です。商品として完成していない品がなぜこの道を運ばれていたのか、不思議な品です。



⑥平清水と鬼越の間の峰です。この地点から南へ向かうと鬼越、北へ向かうと平清水です。西へ向かうと戸神山へ行くこともできます。



## 鬼越の森再生プロジェクト



山形大学 YU-SDGs

山形県山形市の鬼越地区では、広く日本社会全体が共有する社会問題が顕在化しています。私たちが注目しているのは、里山の荒廃が引き起こす問題です。林業の衰退によって人の手の入らなくなった森が土砂災害特別警戒区域に指定され、危険な野生動物の住処になっている現状です。そして、里山荒廃の背景には、超高齢化や働き方の変化、地域コミュニティの消失など、様々な問題が複雑に絡まり合っています。行政などに頼らない住民主導の住環境整備のためには、まず、世代を超えた人々のつながりを取り戻すことが必要と考え、当プロジェクトを発足しました。現在では、(1) 放置林の間伐による里山再生、



プロジェクト HP

(2) 伐採木の暖房用エネルギー資源としての利用の促進、(3) 鬼越の森を通る古道（鬼越古道）の整備による地域住民の森への関心の喚起という三つの柱を軸に、「100年後の未来を創る」という長期ビジョンのもとで、問題解決のために日々活動を行っています。



⑦平清水と鬼越の間の峰から鬼越方面へ降りる斜面です。こちら側にも九十九折の道が敷かれています。九十九折の道は、直進の道より距離は伸びますが、緩やかで楽に登り降りができます。



⑧鬼越と岩波を繋ぐルートです。岩波に向かって九十九折の道があります。登りきった先には石行寺のペット供養塔がありますので、御静肅に願います。



⑧平清水と岩波の中間地点の鬼越です。ここから山形市内を遠望できます。



⑩鬼越古道の岩波口です。目の前に鬼越塚の一部を見ることができます。竜山川から引き入れた水が鬼越方面へ流れ落ちる地点です。



下写真は 2025(R7)年 4月 5日 (土) 晴、鬼越古道ハイクの GPS トラックログと写真、ピークにカタクリが咲き始めていた。



左はピーク



(end)